

ザ・紺碧

WASEDA UNIV. ALUMNI
小金井稲門会
KOGANEI TOMONKAI

発行: 小金井稲門会
事務局: 小金井市中町2-13-7 石井嗣剛方
電話: 042-384-8166
FAX: 042-304-8166

CONTENTS

1~3P「特集」 4P「女子会リレーエッセイ」 5P「会員たちはいま」 6P「うちの部会はこちらが魅力です」 7P「ザ・紺碧ニュース」 8P「これからの予定」

特集

今こそ人と人とのつながりを [国境を越えた結びつきを]

尖閣諸島、竹島(独島)問題で日本と近隣諸国の関係がこれまでになく緊張し、揺れていた2012年の夏、小金井稲門会はこれまでと変わらず、小金井市の近隣に住むアジア、ロシア、アメリカからの留学生5人を「暑気払い」の会へ招いた。

小さな試み、小さな出会いかもしれないが、やがて大きな輪に広がることを願って……。



■留学生たちも腕を上げて「都の西北」を歌う

暑気払いの会場で5人の留学生たちに早稲田大学を選んだ理由、将来の夢、小金井の印象などを聞いた。

◆中国から来た薛漢青(セツ・カンセイ)さん [日本語別科]



—中国はどちらから

上海です。

—早稲田を選んだのは?

早稲田に留学した私の大学の先輩が、「早稲田の雰囲気はすごく良いよ」というので。

—小平市に住んでいるんですね。小金井へは?

初めて来ました。

—上海で想像していた時と比べて実際の日本の印象は?

思っていた以上にきれいだと感じました。空がとても青いです。

—将来は?

大学院に入るための試験を準備しています。将来は日本語を教えたいと思っています。

特集 今こそ人と人とのつながりを [国境を越えた結びつきを]

小金井稲門会の「暑気払い」に参加した留学生たちに早稲田大学を選んだ理由、将来の夢、小金井の印象などを聞いた(1ページからの続き)。

「中国人にとって早稲田は日本でナンバーワンです」

◆中国から来た斉紅強(サイ・コウキョウ)さん [大学院政治学研究科]



——政治学を勉強しているということですが
はい。政治学研究科のなかのジャーナリズムコースをとっています。マスコミに興味がある人が集まるコースです。

——早稲田を選んだのは？

日本に来てから初めて大学院に行こうと決めたわけですが、中国人にとって早稲田というのはイメージ的には日本でナンバーワンですから。あとは周りに早稲田出身の社会人がいて、彼らの話では「入試の点数では東大が高いが、会社に入って活躍できるのは早稲田だ」。それを聞いて日本で就職するなら早稲田と考えたのです。

——将来は日本で何を？

商社で働こうと考えています。

——国分寺に住んでいますが、小金井の印象は？

イトーヨーカドーの中にあるピザ屋さんに来たのが最初ですが、国分寺よりもきれいな街、おしゃれな街だと感じました。

「アニメを見て日本語の勉強を決心」

◆アメリカから来たエミリー・バリストレリさん [日本語別科]



——どうして日本語を勉強しているのですか？

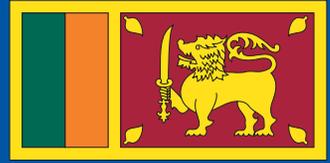
日本語に関心を持ったのは、高校の時に初めて日本のアニメを字幕で見た時、「ああ、日本語ってこんなにきれいなんだ」と思ったんですね。その瞬間に日本語を勉強しようと決めました。

——早稲田を選んだのは？

もちろん良い大学だからですが、留学の申し込み時期がぴったりだったからです。

——将来は何を？

翻訳家です。実は5年前に大学を卒業しましたが、翻訳家になるためにもう一度大学に戻ったのです。



「早稲田には《学問の独立》、自由な雰囲気があります」

 ◆ロシアから来たアレキサンダー・ベルキンさん [大学院アジア太平洋研究科]



—なぜ早稲田を？

国際的に有名ですし、学生に対しても良い雰囲気だと思います。早稲田の「学問の独立」ですね。雰囲気的には学生に対して自由だと思います。

—来てみた印象は？

キャンパスは広く、なんでもあるので便利です。

—将来は？

一応、「シューカツ」をやってみて、コンサルタント会社か商社に入れればと思っています。

—小平市にお住まいですが、小金井の印象は？

とても良い雰囲気だと思います。(来たのは)初めてですが。

「困っている子どもたちのために政治家に」

 ◆スリランカから来たチャンディマ・ラクマリーさん [国際教養学部]



—将来はどんな仕事を？

スリランカで政治家になりたいと思っています。

—早稲田を選んだのは？

実は2004年のスマトラ沖大地震によって父を亡くしました。それで日本のサマーキャンプに参加して、日本の学生とたくさん会い、日本の大学で勉強したいと思うようになりました。

—早稲田の印象は？

毎日新しいことを学んでいるので非常にエキサイティングな日々です。さまざまな学生、人との出会いがあり、本当に素晴らしいと感じています。

—なぜ政治家になろうと？

母が病気だったので、子どものころから私の世話をしてくれたのは父でした。その父を津波で亡くし、私は多くの困難の中で育ってきました。私は、私のように困っている子どもたち、人たちのために働きたい。そう考えたのです。

女子会

リレーエッセイ

ベルギーで感じた早稲田の力



鮎川 志津子
(1987年 商学部卒)

私は小金井市に住む前、ベルギーで暮らしていました。

お隣のパリやロンドンには、稲門会が組織されていましたが、当時のベルギーにはなく、寂しい思いをしていました。

それでも、「早稲田大学」のおかげで、私の7年弱のベルギー生活は充実したものになりました。

ベルギーに住み半年ほど経った頃、フランス語の習得もまだ不十分でしたが、ブリュッセルの大学の扉をたたきました。入学に向けての手續きが苦労の連続で、挫折しそうなこともありました。

しかし、商学部教授との面接で、早稲田の卒業証明書と成績証明書を提示すると、「あなたは、早稲田大学の出身ですか！ 私の学生が早稲田大学に興味を持っています」とのお言葉をいただき、その後の話はとても順調に進んでいきました。

早稲田大学に興味を持っているというその学生は、授業の時にはいつも私の隣に座って、多くのことを教えてくれたものです。

彼女のおかげで、大学で勉強を続けることができ、数年かかったものの、試験で及第点を取ることができました。

彼女は私にとって、ベルギーで一番の友人であり、私が日本に帰国してからも交流は続き、東日本大震災の時も、電話やメールで非常に心配し

てくれました(ただ、残念なことに彼女はハーバード大学院へ進学し、早稲田大学とのご縁はありませんでしたが……)。

帰国後、小金井稲門会に入会させていただきました。

早稲田スポーツ応援会の「ラグビー応援」や「箱根駅伝応援」などに参加して、早稲田魂を楽しんでいます。

観戦もさることながら、佐竹部会長の奥様からの差し入れである特製手作り稲荷寿司は、その温かいお心遣いと共に、絶品です。

ゴルフ部会のコンペにも数回参加させていただきました。浅黄部会長と幹事の方々をはじめとして、部会メンバーの皆様は、とてもお心が広く、寛大にお迎えくださり、ありがたい限りです。

ブービー賞やニアピン賞などもいただき、コンペの楽しさもお裾分けいただいております。

数年前、小金井稲門会創立50周年記念に向けて、ホームページを開設することとなり、参与(現相談役)の増田義雄氏のご指導のもと、お手伝いをさせていただきました。

私はシステムエンジニアであり、デザインのセンスや文才に欠けていること甚だしいのですが、皆様のお力をお借りしながら、今日まで更新を続けています。

お気づきの点やご意見などございましたら、お知らせいただくと幸いです。

皆様に助けられていることに感謝申し上げるとともに、御恩返しをできるように成長していきたいと思っています。



広がるつながる 小金井稲門会！ ～会員たちは今～

『ロンドン五輪と絆』



坂東 洋行

1990(平成2)年、法学部卒。

三菱UFJ信託銀行ロンドン支店勤務

*小金井稲門会からはロンドンへの赴任にあたっていったん退会されています。

小金井稲門会の先輩の皆様、元気にお過ごしのことでしょうか。東日本大震災直後の大混乱の中、ロンドンへ赴任して、はや2年近くが経過しました。

被災地の方々のご苦難や小金井に暮らしてもお感じになる皆様のご苦勞をいつも想っていました。

この間、欧州発の日本を勇気づける明るい話題が多くありました。サッカー女子のW杯優勝があり、期待が高まる中、ロンドン五輪での銀メダル、そしてこれを追うように他の多くの五輪競技の中で、日本人アスリートたちが結果を出したことです。

ロンドン在住のおかげで、サッカー、バレーボール、レスリングと日本人選手が表彰台で手を振る姿を家族と見ることができ、大変感動しました＝写真。

英国稲門会でも、篠崎先輩のサポートにより事前準備で早稲田の代表学生の紹介ビデオを作成し、大きなイベントを開催したところ、競泳女子の現役学生、星さんが銅メダルを獲得し、大きく盛り上がりました。

ロンドン五輪が終わり半年経ち、ロンドンは再び静かな街へ戻りました。会場となったロンドン東部地区の再開発が進まず、批判的的となっていますが、意外な副次効果があったようです。

United Kingdomという国は、イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドの連邦国家です。主義主張の隔たりが常に生じやすい危うさがあるところ、Team GBの下に展開したロンドン五輪によって、いまさらながら一体感、連帯感が強まったようです。ロンドン五輪は外国人にはうかがいしれない大きな絆を英国にもたらしめています。

お時間がある方は、変化した(?) ロンドンへぜひいらしてください。



ロンドン五輪・パラリンピック

早稲田の在学生と校友がメダル獲得!

オリンピックの競泳女子バタフライ200mでは星奈津美選手(スポーツ科学部4年)が銅メダル獲得!早稲田の現役女子学生としては初のメダルという快挙でした。

日本人として28年ぶりに陸上やり投げに出場したディーン元気選手(スポ科3年)は10位。

校友では、競泳400mリレーで藤井拓郎選手(2008年スポ科卒)が銀メダルを獲得。

パラリンピックでは鈴木孝幸選手(2009年教育卒)が競泳男子150m個人メドレー(SM4)と50m平泳ぎ(SB3)で銅メダルを獲得しました。(「早稲田トピックス」から)

シリーズ
うちの部会はここが魅力です

第2回 映画鑑賞会が誕生!

かねてより待望の「映画鑑賞会」が小金井稲門会について発足し、総選挙・都知事選さなかの2012年12月7日、第1回鑑賞会が挙行された。

府中市内の映画館に足を運んだメンバーは、幹事役を務めた関口弘治さん(1960年卒、政経)たち8人。

鑑賞後は、武蔵小金井駅前の居酒屋で合評会を行った(編集長・佐藤は職責として居酒屋から合流し、その模様をご報告する次第である)。

吉永小百合さんは素晴らしかった



『北のカナリアたち』HPより

記念すべき第1回鑑賞会に選ばれたのは、東映創立60周年記念として製作されたヒューマンサスペンスの『北のカナリアたち』。

主演は、日本を代表する俳優・吉永小百合。
ある事故をきっかけに苦しみを抱え続けた教師・

川島はるを、圧倒的な存在感で演じている……。

なぜ、この作品を?という問いに、関口さんは「やはり早稲田だからね。第1回は我が同窓の吉永小百合さんですよ」ときっぱり。「ストーリーもよかった。見ていて涙がこらえられなかったよ」

作品では、現在のシーンと20年前に吉永さんが赴任していた時の回想シーンが、交互に出てくる。

参加者からは「吉永さんはちょっと白髪があったが、若いころとあんまり変わらなかったねえ」「若い時代の演技は大変だったかもしれないが、いやそれにしても若い」と絶賛の声しきり。

また「映画館に行ったのは実は30年ぶり」という方もいれば、「音が素晴らしかったね。あれは家のテレビでは体験できない」との声も。

映画談議から話は政治、経済、日本の将来、中国との関係などにも及び、諸先輩の洞察と広い知見に基づいた、熱いご議論を紹介したいところだが紙幅が許さず、ご容赦をいただきたい。

小金井稲門会のみなさん、誕生したばかりの映画鑑賞会と、和気あいあいの合評会にぜひどうぞ。ご伴侶がご一緒だとさらに楽しくなりそうです。



◆「ザ・紺碧」ニュース◆

平成24年(2012年)度総会を開催

新事務局長に石井嗣剛さん(1967年卒・理工)

2012年11月10日(土)、小金井稲門会の第54期(平成24年度=2012年度)総会が、商工会館で開かれ、新年度(平成24年10月1日～平成25年9月30日)の予算・事業計画や、新役員を決めました。



新しい事務局長には昭和42年(1967年)、理工学部卒の石井嗣剛(つぐたけ)さんが就任=写真。副会長には新たに

西村正臣さん(1962年卒、商学部=企画・同好会担当)、
永井庸夫さん(1966年卒、理工学部=企画・会員拡大担当)、
伊藤佳子さん(1964年卒、教育学部=親睦・交流・女子会担当)が就任され、
小金井稲門会の活性化に向けてさらに強力な布陣となりました。

総会には早稲田大学の河口俊二・地域担当副部長ほか、近隣稲門会から多くのご来賓のご出席を賜りました。

続く第2部は、文学部出身の講師・神田陽司さんをお迎えし、大隈重信侯の日本近代化に果たした功績などを語った『講談 大隈重信』の記念講談会があり、時に熱く、時に軽妙な語り口に一同魅了されました。

会則が改定～家族会員は年会費半額に～

総会によって、会則第30条(収入)第2項に「会員の妻・夫・子等が入会するとき、年会費は2,500円とする」との但し書きを追加することが承認されました。

ご家族が小金井稲門会にご参加しやすくするための改定です。この機会に、ぜひご家族の方もどうぞ！一緒に小金井稲門会の活動を楽しみましょう。

市民公開講座に51人が参加

2012年6月23日に商工会館で開催した市民公開講座は、再生医学研究のトップランナーである岡野光夫先生(東京女子医科大学 先端生命医科学研究所所長・教授、早稲田大学客員教授)を講師にお招きし、「世界に先駆けた細胞シート再生治療のスタート」というテーマでご講演をして頂きました。少々難解なテーマにもかかわらず、会員34人、一般17人が参加し、最先端医療の実態に聞き入りました。

《これからの予定》

◆4月 新入生歓迎会

4月21日(日) 小金井在住の大学新入生を招待

◆6月 市民公開講座

日時:6月22日(土)午後2時~午後4時

会場:商工会館2階

講師:政治ジャーナリスト 仮野 忠男氏

講演テーマ:未定



参加費:無料 / 講座の終了後、近くの居酒屋で懇親会を予定しています

仮野氏の略歴:1945年2月韓国ソウル生まれ。大分県出身。

1968年早稲田大学第一政経学部卒。毎日新聞社へ入社。

首相官邸、各政党、外務省、防衛庁(当時)などを担当。大平正芳首相担当の「番記者」の時、首相官邸敷地内で短刀を振りかざして大平首相を襲撃した暴漢の逮捕に協力し、警視総監賞を受賞。その後、首相官邸キャップ、政治部デスク、政治担当論説委員などを務めた後、2001年6月に退社。現在はフリージャーナリスト。小金井市の情報公開・個人情報保護審議会委員。著作に『首相官邸物語』(角川書店)など

◆8月 暑気払い

8月開催予定



◆秋 美術作品展

美術同好会が9月27日(金)から10月2日(水)まで、小金井市民交流センターで

《訃報》

心よりご冥福をお祈りします。
藤川隆則さん(1960年 政経学部卒)
2012年11月12日ご逝去、76歳

小金井稲門会のホームページは、

小金井稲門会

検索

《編集部から》

全面刷新した新『ザ・紺碧』の第2弾(第38号)はいかがだったでしょうか。人と人との出会い、結びつきというのは国籍を問わず、人生で何よりの財産だと思えます。

今号から編集部には金子正和さん(1973年卒、政経)が加わられました。長く出版社の編集部門にいらした金子さんの加入で、さらにパワーアップ!次号は8月の「暑気払い」に合わせて刊行する予定です。お楽しみに!(佐藤記)

※「ザ 紺碧」の題字は、國分ひろみ副会長にお願いし、書いて頂いたものです。